

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500145	事業の開始年月日	2009.10.1	
		指定年月日	2009.10.1	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ白寿庵永田東			
所在地	( 232-0072 ) 神奈川県横浜市南区永田東2-23-50			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	24 名	
		通い定員	12 名	
		宿泊定員	4 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成24年12月26日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者様おひとり、おひとりの力、家族の力やできる事を大事にし、できない事をお手伝いするように努めています。月に一度の外出訓練を兼ねた外食会、お弁当を持つてのピクニック、不定期に行われる「Bar:Mimozza」など、多彩な行事を開催しています。また、職員の半数が介護福祉士資格を取得しています。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年1月19日	評価機関 評価決定日	平成25年2月13日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>                  ◇職員の熱意と介護技術の高さ                  ・開設から3年が経過しているが、職員の定着率が高く利用者・家族と馴染みの関係を築きながら安定したサービスを提供している。                  ・職員の半数が介護福祉士の資格を有しており、介護技術とともに仕事に対する意識や熱意が高く、ミーティングや会議で情報を共有し連携して利用者と家族の生活を支援している。                  ◇地域住民、及び地域医療との連携                  ・地域とは、各種の行事や運営推進会議、避難訓練などの機会を利用して良好な関係を築いている。更に医療面でも提携協力医のほか、地域医療に積極的な近隣の往診医とも連携して、24時間体制で協力を得られる関係を築いている。  <b>【事業所が工夫している点】</b>                  ◇利用者一人ひとりの現状に即したケアの実践                  ・利用者各人の注意事項を記載した入浴、排泄などの個別チェック表や重度化した場合の手順書を作成して、ケアの標準化に取り組みきめ細かなケアに努めている。                  ◇環境整備のため活動                  ・「環境整備委員会」の職員が定期的に温・湿度、整理整頓状況を点検整備し、利用者にとって居心地のよい共用空間を確保している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ白寿庵永田東
ユニット名	-

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として、①明るい笑顔で元気に挨拶②常に利用者の皆様の気持ちになって③向上心を常に忘れずにの3つを掲げています。朝のミーティングでは、ミモザの期待される介護職員像7項目を唱和しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開設時に掲げた事業所理念を継承しているが、今年末に全職員で見直しを検討している。</li> <li>・朝のミーティングで、法人の期待される職員像を唱和し、理念の縮小コピーを常時携帯して実践につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開設から3年が経過し、利用者や事業所の状況も変化していますので、地域密着型サービスの意義や法人の理念を踏まえて、事業所理念の見直しが期待されます。</li> </ul>
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催の夏祭りの寄付や参加はもちろん、ミモザ主催の行事や避難訓練・救急救命講習への参加を呼びかけるなど、交流を図っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会や敬老会の行事に参加しており、事業所の行事にはポスティングで地域の方々へ案内している。</li> <li>・介護の相談窓口としてのPR活動が少しずつ浸透し、地域の方の相談が増えてきている。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談窓口としてPRしてきたことが、少しずつ実を結んできているようです。時折、地域の方で相談にみえる方が増えてきています。また来年度には、包括支援センターよりの依頼で、認知症サポーター教室を開く予定です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組みについての報告や話し合いなどは、欠かさず行っています。民生委員や町内会の役員の方々から、地域の介護に関する現状を伺う事により一層充実したサービスになるのではと思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会には民生委員や町内会の役員、家族が参加して2か月ごとに開催し、事業所の活動報告の後運営について意見交換を行っている。</li> <li>・出席者から地域の介護に関する情報を得て、更なるサービスの向上につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区との連携協力体制を築くためにも、区の担当者等へ運営推進会議への出席の働きかけが期待されます。</li> </ul>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	小規模連絡会参加や小規模勉強会参加しています。区からの依頼により、家族からの虐待の疑いのある方の受け入れをしました。区のワーカー・包括支援センター・ミモザの3者で連携を取りながら、支援を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者が、小規模多機能型居宅介護事業者連絡会の事務局として活動しており、市の担当者とは密に連携を取っている。</li> <li>・区の依頼を受け、地域包括支援センターと連携しながら積極的に利用者を受け入れている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設置しています。年一回30分研修のテーマとして取り上げ周知・徹底しています。	・身体拘束・虐待防止委員会を設置しており、研修テーマに取り上げて話し合い、結果を全職員に周知し徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設置しています。虐待の疑われるケースでは、行政や包括支援センターと協力・連携をしています。また早期発見に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が、2名います。後見人との日頃のやりとりから、職員も制度の理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新しいパンフレットを作成し、より分かりやすいものにしました。相談や問い合わせなど随時受け付けています。また内容によっては、自宅に訪問し説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	朝・夕の送迎時での聞き取りや、連絡ノートを利用して聞く機会を持つようにしています。また、送迎の職員より利用者・家族の様子が「いつもと違う」と、報告があれば直ぐに電話や訪問をし、迅速な対応を心がけています。	・朝夕の送迎時や連絡ノート、運営推進会議などで意見・要望を聞く機会を設け、それらを運営に反映させている。 ・利用者に毎年食事アンケートを実施して意見を聞き、結果をサービスの改善につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや毎月行う職員会議などを利用し、職員の意見や考えなど出し合うようにしています。さまざまな委員会を設け、サービス提供のために試行錯誤しています。	・朝夕のミーティングや毎月の職員会議、および7種の各委員会（全職員はいずれかに所属）で職員の意見や提案を聞き、業務改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員と個々に面談をし、できている事、努力が必要な事など話し合い処遇改善加算の一部をスキル手当として支給しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を元に、毎月の全体会議で研修を行っています。総合研修所もでき、本社での研修にも職員を参加させています。また、外部の研修の情報も職員に提供しています。OJTを基本に、エルダーを中心に育成しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国・県・市の小規模連絡会に加入しています。定例会には、できるだけ参加するようにしています。小規模勉強会には、職員に参加してもらい情報交換し、より良いサービスとなるようにしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	問い合わせや見学・体験を通して本人の気持ちを聞くようにしています。入院中の方であれば病院に訪問したり、自宅に伺うなど本人と会う機会を持ち、じっくりとお話を聞くようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学・体験時に家族の気持ちについても聞くようにしています。そしてプランに反映するようにしています。利用開始された後も連絡ノートや送迎時を利用して積極的に情報交換をし、信頼関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、細かく聞き取るようにしています。現在の介護サービスの利用状況や介護力など、把握するようにし、本人や家族の力を活かした支援方法を提案し、ご理解をいただいてから利用を始めるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側という意識ではなく、お互いを思いやり、一緒に暮らしていく者同士という意識を持つようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の力をうまく引き出し、足りない部分を支援する事により家族と共に、本人を支えるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴をふまえ、なじみの関係を継続できるよう支援しています。この年末は、なじみの方への年賀状を書くお手伝いをしました。併設の高齢者向け住宅にお住まいの方の来訪者の窓口になり、なじみの方々とのやり取りがスムーズに行われるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>友人や馴染みの民生委員の来訪時には、寛いで過ごせるよう支援している。</li> <li>併設の高齢者向け住宅に住んでいる利用者の電話を取り次ぎ来訪者の窓口になるなど、利用者の馴染みの方との関係の継続を支援している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用を開始して日の浅い方には、職員が橋渡し役となり、仲間作りができるよう支援しています。また耳が遠くコミュニケーションが取りにくい方にも職員が間に入り、仲間作りのお手伝いをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了の理由は様々ですが、本人や家族が落ち着いて日常を送れるようになるまで、相談に応じています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの暮らしを大切にし、これからのについて本人と話しをする中で引き出すようにしています。本人からの聞き取りが難しい場合には、家族から話しを聞くようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や家族から、本人のこれまでの人生で一番楽しかった（輝いていた）時のことなどを聴き取り、これからの暮らし方について話し合っている。</li> <li>・困難な場合は、表情や何気ない言動から利用者の思いや意向を推し量っている。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の聞き取りの時に、多くの情報を得られるように努めています。担当のケアマネがいる場合には、連絡を取り継続したサービスが行われるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	最初の聞き取りはもちろん、利用開始後も本人や家族との関わりを大切にし、不満や不安、要望がないか把握するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する時には、本人や家族の意向を大切に作成しています。また必要に応じて、職員皆で話し合いながら医療や行政等の関係者とも情報交換をしています。	・本人・家族の意向、必要に応じて医師や行政など関係者と情報交換しながら介護計画を作成している。 ・毎月ケア会議を開催し、モニタリングしている。定期的な見直しのほか必要に応じて適宜検討し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録を作成しています。日々の様子や変化を記録しています。また記録や申し送りノートを利用して、情報の共有をはかり共通の認識を持つようにしています。月1回の会議で計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	最初の面談時に、小規模ならではのサービスの具体的なケースなどを用いて説明をしています。利用開始後も要望を伺いながら、検討・対応するように努めています。また家族の力やなじみの方々の力、地域の力も視野に入れたサービスになるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや町内会、自治会、民生委員、行政と連携を取り、本人が地域で暮らしていけるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで利用していたかかりつけ医との関係を継続していただいています。緊急時に搬送できる医療機関でない時には、事業所で提携している医療機関に受診していただき、緊急時に備えています。また必要な方には、往診医の紹介もしています。	・利用者のかかりつけ医との関係を大切にしながら、必要に応じて地域の協力往診医を紹介している。往診医の理解も深く、24時間対応可能となっている。 ・受診の折は家族の状況に応じて、訪問の通院介助を支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置が非常勤であるため、毎日の様子観察とはいきませんが、介護職員から看護職員への申し送りを徹底するようにしています。また非常時や判断に困った時には、連絡を取り、アドバイスをいただくようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院から情報を得、必要に応じて病院へ出向いています。また退院後の生活上の注意点など指示をいただいています。本人や家族の状態によっては、退院後お泊まりを利用させていただきADLの確認をさせていただきます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態が大きく変わった時、ADLの著しい低下や介護度が大きく変わった時には、家族と連絡を取り合い今後の方向性を話し合うようにしています。また看護職員が常駐でないため医療行為の必要がある場合には、できる事・できない事を伝えるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重度化や終末期の対応については、できる事、できないことを伝えながら、利用者・家族の意向に出来る限り添えるよう取り組んでいる。</li> <li>・職員に重度化や終末期に対する研修を行い意識の向上を図っている。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行っています。特に急変時のABCや誤嚥時の対応は、半年に一回は行うようにしています。消防署の協力を得て、AEDの使い方や心マッサージの仕方の指導をいただいています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練（あわせて年3回）を行いました。水消火器を使って、消火訓練も行いました。近隣の方々にも声かけし、協力していただいています。また倉庫の一部を町内会の災害時の備蓄品保管場所として、お貸ししています。また会社として、BCPの計画を事業所ごとに策定しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、地域の方々の協力を得て昼夜間を想定した避難訓練を3回実施している。</li> <li>・横浜市のフォーマットを活用してBCP（事業継続計画）を策定し、より地域に目を向けた災害対策に取り組んでいる。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	総合研修所が作成したミモザ接遇マナー読本をもとに、今年度は研修を行いました。人生の先輩として、敬いながら接するように心がけています。	・利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねないよう節度ある対応を心がけている。 ・設置法人が作成した「ミモザ接遇マナー読本」をもとに研修を行い、プライバシーの確保と接遇の大切さを再確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つの事柄でもいくつかの選択肢を設け、声かけをし選んでいただけるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりのペースで過ごしていただけるようにしています。行事がある時には、朝の挨拶の段階で一日の予定をお知らせするようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅での生活が基本になりますので、本人や家族にお願いしています。独居などの理由により、支援が必要な方には本人の希望を聞きながら支援するようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	年に一回、食事についてのアンケートを行い、好みを把握し出された意見や要望を日々の献立作りに活かしています。また下膳やテーブル拭きなどできる方には、声かけをしております。	・昼食の食材は業者に委託し、職員が交代で調理法や味付けに変化をもたせて調理している。 ・月に一度の外出会と、おはぎ、クレープ、ドラ焼きなどのおやつ作りは、利用者の楽しみの一つになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の好みや習慣など本人や家族から、聞き取りするようにしています。また食べた量や水分摂取量など、記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用開始と同時に、歯ブラシセットをお預かりしています。週一回、消毒も行っています。本人のできる事は、声かけをさせていただき必要に応じてお手伝いするようにしています。希望があった場合には、訪問歯科医の紹介も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	来所時・帰宅前・食事の前後など一日の節目で声かけをしています。排泄チェック表に個々の排泄の有無を記録し、排泄パターンを把握し、その方にあった声かけをしています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員は排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、尿意のない方にも時間を見計らって声を掛け、トイレでの排泄を支援している。</li> <li>利用者の動作や表情での排泄サインを見逃さず、トイレに誘導している。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	長期のお泊まりや排便コントロールの必要な方は、排便の有無を記録しています。また家族と連携し、自宅での様子も確認し、継続してチェックができるようにしています。便秘時には、食べ物を工夫したり、体操や服薬などで体調の安定を図っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	同性介助の希望や湯温の好みなどを把握し、入浴していただけるようにしています。また脱衣室では、カーテンを引くなどプライバシーに配慮しています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴は最低でも週3回とし、入浴時の個別注意事項を記載したチェック表を活用して、本人の意向にそった支援を行なっている。</li> <li>入浴を好まない利用者には、日時や介助職員を変えたり、言葉かけを工夫しながら誘導している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用が決まった段階で、起床時間や就寝時間・昼寝の有無などこれまでの様子をうかがっています。日々の体調に気を配り、臨機応変に休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新規利用時・薬が変わった時に処方箋を提出していただいています。処方箋は、コピーし個人ファイルに綴じています。看護師の指導のもと薬の目的や副作用など理解するようにしています。薬の困難な方には、かかりつけ医と連携を取り、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や趣向に合った活動ができるように支援しています。午前中は、個人・少人数・多人数で行う活動などいくつかある中から、選んでいただいています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に合わせることは難しいですが、外出の機会を持てるようにしています。真夏・真冬を避け月一回外食会を開いています。またお弁当を持って出かけ、海を見ながらの食事や散歩は、とても好評でした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気が良ければ、近くの公園に出かけて、自然を楽しみ気分転換を図っている。</li> <li>・季節に応じて弁当持参で、花見や海を見に遠出したり、希望に応じて買物への同行や地区の敬老会への送迎など個別に支援している。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭の持ち込みは禁止させていただいています。ただし、財布がないと不安になってしまう方には、その都度、預かり証を書き金庫にお預かりしています。帰宅時に返却しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や日頃お世話になっている方へ年賀状を書きました。書ける方とそうでない方がいらっしゃるため職員が、見本を書いたりしながら書いていただきました。併設の高齢者向け住宅にお住まいの方の電話の取り次ぎは行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や室温・換気など気をつけています。加湿器や扇風機・床下暖房など有効活用しています。ミモザ全体で環境整備に力を入れ、環境整備点検も行われるようになり、環境整備委員会を中心に心がけています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「環境整備委員会」の職員が定期的に温・湿度、整理整頓状況、色調、光線などを点検整備して、利用者にとって居心地のよい共用空間を確保している。</li> <li>・掲示板には四季の変化が感じられる飾り付けや利用者の作品を展示し、話題づくりに配慮している。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席に配慮する事はもちろんですが、ソファも用意していますのでゆっくり過ごしたい方には、お勧めをしています。各居室にも椅子を用意しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、事業所が用意したベッドや収納・椅子があります。居住目的ではなく基本は自宅であるため、持ち込む物は最小限にさせていただいています。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泊りの部屋にはベッド、布団、収納家具、椅子、エアコンが備えられ、利用者は着替え、ラジオ、本など必要なもの、馴染の物を持ち込んでいます。</li> <li>・部屋の清掃は行き届いており、室内は清潔に保たれている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り本人の力を活かして行動できるように支援しています。トイレ・浴室・居室など分かりやすいよう表示しています。手すりを設置したり、角にはクッション材を取り付け安全面にも配慮しています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ白寿庵永田東

作成日 平成25年2月15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	利用者の状況や事業所の状況が変化しているため基本となる理念を見直す時ではないか。	事業所の理念を新しく作る。	法人の理念、期待される介護職員像を再度振り返り、職員全員で事業所の理念を考える。	3か月
2	3	事業所と区との連携を図る。	運営推進会議を通して連携を図る。	2か月ごとに定期的開催している運営推進会議への出席をお願いする。	半年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。